

理事長賞

水の大切さ

池田 姫莉

八女市立三河小学校

私は、毎日水を当たり前のようによく使っていました。でも、矢部川浄化センターのオンライン見学によって、水の大切さを知ることができました。

見学をする前の私は、「浄化センターって、どんな所だろう。どんな事をするんだろう。」と思っていました。社会科の学習では習っていたけれど、なかなかイメージがわかりませんでした。オンライン見学は、施設の様子動画を見ることから始まりました。そして、センターの方の話を聞くことで、いろいろなことが分かってきました。たとえば、水をきれいにしてくれる微生物がいること。その微生物は油が苦手なこと。機械は、百四十六種類もあり、働いている人は三十六人だということ。私は、よごれた水をきれいにするために、人と機械と微生物とが、協力し合っていると分かりました。

また、現場案内や実験などの様子も見せてもらいました。いろいろな施設の紹介から、水をきれいにする仕組みが分かりました。実験では、下水ときれいにした水を別々の入れ物に入れ、色が変わる様子を見せてもらいました。色のちがいがいから、本当にきれいな水になっているということがよく分かりました。おもしろくなってきた私は、質問コーナーで手をあげました。

「動画で一日に一万リットルメートルの水をしょ理していると言っていました。それはどれくらいどの量ですか。」

とたずねました。すると、

「大体、二十五メートルのプールで、三十杯分くらいです。」

と案内の方が、おっしゃいました。私は、八女市と広川町と筑後市とで、そんなにたくさんのお水を使っているんだと思い、とてもおどろきました。そして、きれいな矢部川を守るためには、下水の量を少しでもへらさなくてはいけないのではないかと思いました。

生活をしていく上で、水は欠かせません。これから私は、水をむだ使したり、トイレトーパー以外の物をトイレに流したりしないようにします。そして、私だけでなく、家族にも、みんなにも、下水をへらすことに取り組んでほしいと思います。